

みんなの公園！

たくさんの遊具があり、自然と親しむこともでき、しかもリーズナブル！

休日のおでかけ定番スポット“公園”や公共施設を紹介します。

御勅使南公園

みだいみみなみこうえん



みんなの公園！





↑高さ11mのザイルクライミング（利用対象6～12歳）はスリル感たっぷり。



高さ11mのザイルクライミング、長さ20mを超えるローラーすべり台、バラエティ豊かなコンビネーション遊具の数々…。子どもたちをドキドキワクワクさせるような、たくさんの遊具のある公園です。より小さな子どももむけのスプリング遊具なども充実。遊具はいざれも日本公園施設業協会の安全基準をクリアしたものとなっています。

御勅使川沿いに広がる公園の総面積は33.5ha。たくさんの遊具のある遊戯ゾーンをはじめ、河川敷に芝生広場が広がる交流

ゾーン、アカマツ林の中のお散歩も楽しめる健康の森ゾーンなど、7つのゾーンに分かれています。中央広場ゾーンにある水遊び場もこの公園の名物の一つ。夏季（ゴールデンウィーク～9月末）には、たくさんの噴水を設置した徒渉池をはじめ、湧水池や2つの池をつなぐ川のせせらぎの中で遊ぶことができます。水深は10cmほどで安全。周囲には木陰もたくさんあるので、夏の水遊び＆お涼みスポットとしても多くの人に親しまれているのです。



↑円錐状の山や池の周囲からたくさんの水が噴き出す徒渉池。

Access & Information



南アルプス市六科1588-2

TEL055-285-4712

終日開放

無休



↑広さが1haもある芝生広場。四季折々さまざまな表情を見せる木々に囲まれています。



総面積16haの中に、野球場・陸上競技場・コミュニティプールなど、スポーツの施設を備えている総合公園。公園の南側の遊具広場には、コンビネーション遊具や乗り物遊具などさまざまな遊具があり、休日ともなると、多くの家族連れが訪れています。お椀型のブランコや、車椅子に座ったまま楽しめる砂遊びの遊具など、インクルーシブ遊具があるのも特徴。

野球場西側の川をはさんだ向こうにも遊具広場があります。ベッドの上で飛び跳ねるような感覚で遊べる「ベッドジャンパー」をはじめ、回旋遊具やインクルーシブ遊具など、比較的新しい遊具が配置されています。駐車場やトイレからのアクセスもよく、小さな子どもや障害のある子のいるファミリーにとって、使い勝手のいいエリアとなっています。

Access & Information



↑野球場西側の遊具広場には、比較的新しい遊具が設置されています。



秋山川すももの郷公園

あきやまがわすもものさとこうえん



東西に延びる秋山川沿いに、5つの駐車場と遊歩道、そしてたくさんの遊具が点在する独特のレイアウト。ブルドーザーを模したコンビネーション遊具やアスレチック遊具、健康遊具など多彩な遊具があり、子連れのファミリーからウォーキングを楽しむ年配の方まで、さまざまな人が訪れます。2025年春には、新たにネット遊具や回転遊具、ブランコなどを増設。



Access & Information



みんなの公園！



白根中央児童公園

しらねちゅうおうじどうこうえん



通称「はーもにーぱーく」。すべり台が付いたコンビネーション遊具と2つのブランコが設置されています。遊具も少なめでコンパクトな公園ですが、それだけに目が行き届きやすく、小さな子どものいるママたちがのんびりと時間をすごすのにピッタリ。すぐ近くにある白根桃源図書館や白根児童館に行ったついでに、この公園でお弁当を食べたり遊んだりする方もいます。春には桜が咲き、穴場のお花見スポットに。



Access & Information



31



やまなみの湯ふれあい公園

やまなみのゆふれあいこうえん



温泉施設として知られるやまなみの湯。その南側に広がる公園です。4mの高さかららせん状にすべり降りるローラースライダーやターザンロープ、ジャングルジムなどの遊具、広大な芝生広場もあってなかなかの充実ぶり。温泉施設内にはお風呂だけでなく、レジャーポールや幼児用プールもあり。プール用オムツとキャップを着用すれば乳幼児も利用可能です。



Access & Information



南アルプス市西南湖1299-1
TEL055-280-3340
終日開放／無休
※温泉施設は10:00～21:30、
水曜定休(水曜が祝日の場合翌日休)



遊・湯ふれあい公園

ゆうゆふれあいこうえん



スポーツクラブと温泉施設がある「さくらの里 憇いの家」に隣接する公園です。芝生広場と遊歩道の向こうには、遠くに富士山を見る眺望が開け、開放感たっぷりにお散歩が楽しめます。芝生広場の周辺には、小さい子も楽しめるスプリング遊具やすべり台、あるいはダイナミックに遊べるターザンロープなども配置されています。露天風呂や壺風呂など、内外5種類のお風呂が備えられた温泉施設は、幼児の利用も可能。



Access & Information



南アルプス市鏡中條3782
TEL055-282-7610
終日開放／無休
※温泉施設は9:30～21:30、金曜定休



南アルプス市乗馬センター

みなみあるぶすしじょうばせんたー



ポニーに乗り、スタッフが手綱を引きながら馬場を2周する体験（中学生以下620円、障がい児310円）ができる施設。ヘルメットや馬を嫌がらなければ、1歳くらいの子でも体験可能。親子ひき馬（1650円）もあります。思ったよりも高い馬上で揺られるドキドキ感、そして実は子どものことを気遣っている馬とのふれあいが魅力。ウサギの餌やり体験（100円）も人気です。



Access & Information



南アルプス市塩前888
TEL055-285-8181
8:30~17:30
水曜定休

みんなの公園！



fumotto 南アルプス

ふもと みなみあるぶす



地域交流エリアとして2025年春にオープン。約12haの敷地には、地元の野菜・果物や加工品などが購入できる農産物直売所、地元の食材をふんだんに使ったレストランなどが並びます。施設北側には、スイーツ・地場産品・アウトドア用品などのテナントも。芝生広場や水遊びができるエリアもあり。週末は各種イベントも開催され、親子連れで賑わっています。



Access & Information



南アルプス市十日市場
1571-1
TEL055-225-3366
8:00~19:00/無休



ふるさと文化伝承館

ふるさとぶんかでんしょうかん



国の重要文化財でもある鋳物師屋遺跡から出土した土器や土偶などを展示する博物館です。気軽に歴史文化に接してもらえるようにと、学んで遊べるキッズコーナーが用意されています。難易度別の立体パズル、点つなぎや迷路をクリアすると土偶のキャラクターが浮き出るワークシート、南アルプス市全体の地図パズルなど、親子で学んで遊べる体験型の施設です。



Access & Information



南アルプス市立美術館

みなみあるぶすしりつびじゅつかん



南アルプス市と富士川流域のアーティストの作品を収蔵・展示している美術館です。展示を見ながら子どもも楽しめるようにと、親子でできるクイズや宝探しなども用意しています。また、月に1回子どもたちが参加できる工作イベント「美術館であそぼう！」も企画。アートに触れるこ

とで、豊かな感性や表現力・想像力を育む機会を提供しています。

Access & Information



馬と子どもたちの間にある、見えない絆

子どもたちを馬の背にのせ、ひき馬体験をさせてくれる南アルプス市乗馬センター。ホースセラピーにも重点を置くこの施設のセンター長・土館あやさんが、馬と子どもたちとの不思議なコミュニケーションについて語ります。



profile 土館 あや
Tsuchidate Aya

南アルプス市乗馬センター・センター長。幼い頃に見たサラブレッドに魅了され、乗馬の道へ。競走馬の育成牧場や厩舎スタッフ、さらにはホースセラピーの乗馬センターの立ち上げも経験する。2014年、山梨に移住。1児の母。

南アルプス市乗馬センターにお子さんが来たとき、担当するのはポニーのアキナです。馬という生き物は、強くてやさしい人間に従う習性があるのですが、アキナは小さな子、特に女の子が大好き。下馬した後も、ずっと子どもたちの方を見ています。アキナは幼い頃、青森の個人のお家で飼われていて、そのとき小さな女の子が世話をしていたそうです。もしかしたら、その女の子をずっと探しているのかもしれませんね。

初めて馬に乗ると、意外と目線が高くなることや、4本足で動く独特の動きに驚くかもしれません。泣いちゃう子もいます。でも馬場を2周する頃にはだいたい笑顔になっています。それはたぶん、馬の体温のあたたかさ、そして馬が自分のことをやさしく気遣ってくれていることがわかるからではないでしょうか。乗馬のドキドキワクワクは、ジェット

コースターとは全然違います。特に子どもは、言葉を介さなくても生き物同士のコミュニケーションを自然と交わしているようです。

私は最初、馬という生き物に夢中になり、やがてはホースセラピーに携わりたいと、この仕事を選びました。これまでに、馬とのやりとりの中から、自閉症の子が自分以外の外の世界に興味を持って言葉や表情が豊かになったり、身体不自由の方の体幹がよくなったりする多くの例を見てきました。そんなことを言うと、「馬に乗れば障がいがよくなるの?」と思われる方もいるかもしれません、まずは馬のやさしさと、それを感じた子どもたちの表情を見てほしいです。そして子どもだけでなく、子育てや仕事に疲れた大人も馬に乗ってほしい。馬の背に揺られ、言葉じゃない会話を楽しめば、もしかしたらそれが明日の一歩への活力になるかもしれませんよ。